

『罪と後悔、裁きと許し』 寸評

- ・たった16小節で罪から許しまでを問う意欲作
- ・やや強引に展開をよびこむテンポ操作と新たなモチーフのくりだし
- ・これまでになく一気呵成につくりあげたかのような勢いが感じられる
- ・旋律の上行形・下行形を意識して作品構成に利用している
- ・どんな内心の変化があったのでしょうか ベートーヴェンを聴きまくった？

完成度をさらに上げるために

- ・ m.3 ♩=144 へのテンポ変化は *accel.* があつたほうが自然
- ・ m.1-9 バスが二分音符-四分音符-八分音符へと細かくなっていき
m.11からは ♩=72 と ♩=144 の二倍になる やや理屈っぽい
- ・ 器乐的な動機操作にとどまらず旋律的楽句ももりこんでほしい
- ・ m.10 カウントのある空白小節はおかしい せめてフェルマータをつけるか
m.9 b.4のあとにカンマを打ってm.11への一呼吸としよう (m.10はカット)
- ・ m.14-5 タイのある音符はさいごの音符にフェルマータ
- ・ m.12-3 両小節ともバスがミだと和声変化がはっきりせず不満足
- ・ m.11 転調してるので基本形の安定感がほしい
- ・ m.14 b.1-2 バスが6度跳躍で第2転回形になるのはなぜ
- ・ m.6 b.4-m.8 参考例



m.=measure 小節番号のことです。
b.=beat 拍のことです。

とてもいいです。
持魔 勉